

北海道中標津農業高等学校の行動計画(グローバル・アグリハイスクール宣言 Part II)

全国の農業高校の行動計画		学校において令和7年度に重点化する取組及び具体的方策		
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	目標達成期間	具体的方策
I グローバル教育で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	(1)アグリマイスター顕彰制度を活用し、全校生徒が共通に身に付けるべき資質や能力の育成と、多様な学習ニーズへきめ細やかな対応を行う。 (2)農業クラブ三大事業に向けた取組を強化し、クラブ員の農業クラブ活動に対する意識向上を図る。	A A	(1)日本農業技術検定2級をはじめとした各種検定の受検を積極的に推奨し、検定の合格率を向上させるために講習会等を実施する。 (2)農業クラブ活動において生徒の主体的な活動によって意識向上を図る。
	2 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。	(1)JICAなどの関係機関を通して、グローバル社会に対応し、広い視野に立って地域活動を推進する人材を育成する。 (2)SDGsやみどりのシステム戦略の考え方を取り入れたプロジェクト活動を推進し、持続的な地域連携を図る人材を育成する。	B B	(1)講習会などを実施しグローバルな社会に対応した語学力と職業観を養う。 (2)講習会などに積極的に参加し、地域の課題を正しく理解するとともに、研鑽を深める。
II 地域社会・産業に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	(1)JGAPや農場HACCPに準拠した生産体制を展開する。 (2)SDGsの考え方を取り入れたプロジェクト活動を推進し、持続的な地域連携を図る人材を育成する。	B B	(1)JGAP家畜・畜産物(乳用牛・生乳)に対応した生産工程管理を実践するとともに、普及を目指す。 (2)SDGs講習会などに積極的に参加し、地域の課題を正しく理解するとともに研鑽を深める。
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	(1)企業実習を通して、農業関連産業従事者としての職業観・勤労観を養い、地域の未来を支える職業人の育成を目指す。 (2)フードシステムの一連の流れを体系的に学習させるとともにHACCPの考えを取り入れた加工品の製造を展開する。	A A	(1)企業実習の事前事後指導を充実させ、計画的に実施できるようにする。 (2)日々の製造実習や学習の中で、HACCPに準じた指導を徹底する。
III 地球環境を守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	(1)校内で生産された有機質肥料(堆肥)の活用により化学肥料使用量の低減を図る。 (2)光合成細菌を用いた農産物の生産を行い、循環型農業の確立を図る。	B B	(1)家畜排せつ物を適正処理し、作物栽培に活用することで持続的な農業について学ぶ。 (2)減肥・減農薬による高品質な野菜栽培に取り組む。
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	(1)地域資源の活用に関する活動を行い、地域資源への興味関心の向上を図る。 (2)食農教育活動をより一層充実させ、地域内一貫教育を行う。	B A	(1)地域資源活用に向けたプロジェクト学習を展開し、地域振興を目指す。 (2)地域の幼・小・中学校全学年を対象とした食育学校を継続させるとともに、体験内容の充実を図る。
IV 地域交流の拠点となる学校	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	(1)ICTを用いた学習活動を展開するため、ICT機器(タブレット端末等)を積極的に活用した授業運営を図る。 (2)スマート農業学習を充実させ、正しい知識の定着を図る。	B B	(1)ICTやスマート農業に関する研修会を充実し、生徒へ還元する。 (2)専門機関との連携を図り、スマート農業の実態について学習を深める。
	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	(1)自然災害に関する理解を深め、地域と共に防災教育を推進する。 (2)安全教育を徹底し、地域防災を意識した危機管理能力の向上を目指す。	A B	(1)地域の防災教育プログラムへの参加を推進するとともに年2回の防災訓練を通して、全校生徒の防災意識の向上を目指す。 (2)GAPや農場HACCP等を活用し、生徒自ら農場のリスク評価を行い、事故の未然防止を図る。